

別添様式4

青森県鳥獣被害防止総合対策事業(国事業名:鳥獣被害防止総合対策交付金)の評価報告(令和5年度)

事業実施主体名:平川市鳥獣被害防止対策協議会(構成市町村:平川市)

1 被害防止計画の特徴等

平川市では毎年、有害鳥獣による農作物被害が発生しており、生産者の営農意欲低下が懸念されている。また、捕獲活動を実施する平川市鳥獣被害対策実施隊員の高齢化や人手不足により、隊員の負担が増加している。
これらを解消するために、鳥獣被害防止体制の強化や、ドローン等の先端技術を活用等、総合的かつ計画的な鳥獣被害対策を強化している。

2 事業効果の発現状況

鳥獣による農作物被害の防止として、被害防止機材の導入、関係機関との連携、実施隊員の確保に向けた取り組みを行ったことにより、令和元年度と比べ、令和5年度において農作物被害額が減少した。

3 被害防止計画の目標達成状況

令和5年度のカラスによる被害額の目標値は3千円であったが、実績は0円であり、目標を達成できた。
令和5年度のツキノワグマによる被害額の目標値は621千円であったが、実績は835千円であり、目標の達成ができなかった。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	
										対象鳥獣	被害金額(千円)				被害面積(a)				
											基準値	目標値	実績値	達成率	基準値	目標値	実績値		達成率
平川市鳥獣被害防止対策協議会	青森県 平川市	R3-R5	ツキノワグマ カラス ノウサギ カルガモ ニホンザル タヌキ アナグマ キツネ ニホンジカ アライグマ イノシシ ハクビシン	①有害捕獲実施隊による捕獲活動 R3 27人で3,262h R4 24人で3,343h R5 32人で3,847.5h 捕獲機材の整備 ・電気止め刺し R3 2本 ・くり農(ばね付き) R3 12基 ・クマ用農 R4 5基 R5 2基 ・小動物用農 R4 3基 ・イノシシ農修繕 R4 1基 ICT機器の活用 ・捕獲検知機 R3 5台 R4 5台 ②被害防除 追い払い活動 R3 3人で250h R4 3人で250h R5 3人で243h	R3 27人で3,262h R4 24人で3,343h R5 32人で3,847.5h	平川市鳥獣被害防止対策協議会	-	-	・捕獲頭数 ツキノワグマ:R3 22頭 R4 23頭 R5 55頭 カラス:R3 17羽 R4 20羽 R5 11羽 ノウサギ:R3 2羽 R4 5羽 キツネ:R3 2匹 アナグマ:R4 1頭 R5 6頭 ニホンジカ:R4 2頭 タヌキ:R5 7匹 イノシシ:R5 2頭 ハクビシン:R5 2匹 鳥獣による農作物被害は、主にツキノワグマによるもので、ニンジンの食害、山間部の樹園地におけるリンゴ、ももの食害・樹体被害が問題となっている。 これに対し、平川市では、県の補助金を活用しながら箱篋の整備、有害鳥獣の捕獲活動を強化しており、農作物の被害額が減少傾向にあったが、令和5年度において、例年を大きく上回るツキノワグマの出没件数であったため、前年に比べ被害額が大幅に増加した。	ツキノワグマ	R元	R5	R5	19.55%	R元	R5	R5	52.69%	令和2年度から令和4年度では、鳥獣による被害が徐々に減少していたが、令和5年度ではクマの出没頭数が大幅に増加したことに加え、実施隊員の高齢化や担い手不足により急増した野生鳥獣への対応が追い付かなかったことで被害が増加した。 センサーカメラ、捕獲検知器の活用により、実施隊の見回り等の負担が認められるため、今後もICT機器の活用により省力化を図っていく。 また、毎年、箱篋の整備を行ってきたが、クマの出没件数が大幅に増加したため、今後は更なる整備が必要である。 赤外線ドローンについては、イノシシを対象として使用しているが、発見には至っていない。
										カラス	5	3	250.00%	0.1	0.07	333.33%			
										ノウサギ	-	-	-	-	-	-	-		
										カルガモ	-	-	16	-	-	0.4			
										ニホンザル	-	-	-	-	-	-	-		
										タヌキ	-	-	-	-	-	-	-		
										アナグマ	-	-	-	-	-	-	-		
										キツネ	-	-	-	-	-	-	-		
										ニホンジカ	-	-	-	-	-	-	-		
										アライグマ	-	-	-	-	-	-	-		
イノシシ	-	-	-	-	-	-	-												
ハクビシン	-	-	-	-	-	-	-												
										892	624	851	15.30%	31	21.67	26.4	49.30%		

- 注1:被害金額及び被害面積の目標値の欄は、対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
2:事業効果の欄は、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。
整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。
3:事業実施主体の評価の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。
4:鳥獣被害防止施設の整備を行った場合には、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況並びに侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況等を別添様式1別紙3に具体的に記載し、添付すること。

5 第三者の意見

令和5年度では、クマの目撃・捕獲が過去最多となったため、対応が大変であったと思われる。今年度においては、クマの出没情報は夏以降大幅に減少した。しかし、来年度はクマの出没が増加すると予想されるため、より一層の対策を講じていただきたい。また、平川市においてもニホンジカやイノシシの目撃情報があり、特にイノシシは水稲に多大な被害を及ぼす可能性があることから早急な対策が必要である。